

# 長田下地域 振興会だより 第27号

2016年(平成28年)11月24日発行

## 「おかげんさん」7月16日(土) 中長田集会所から地域へ

本格的な夏を迎える時期、夏の暑さを乗り切るために、宮島の管弦祭を模しての「おかげんさん」を今年も行いました。当日は、100名余りの地域の皆さんが集まり、提灯灯籠を担いで地域の安全と人々の健康を願って行脚しました。提灯には子ども達の描いた絵が蝋燭の火で映し出され、太鼓をたたく子ども達も元気よく、また、夜空に花火も打ち上げられ、地域の将来の希望を感じたものでした。いつもながら、関係者の方々には多くの準備や食事の世話などをして頂き感謝いたします。(担当T. K)



## 長田下地域大運動会 10月9日(日)

心配された雨も降らず、運動会日和になりました。本当に楽しい運動会でした。

毎年思うことですが、下地域のみんなが集まりいろいろな競技をして、天ぷらうどんを食べて閉会式。とりたてて、何があるわけでもありません。でも、この運動会には参加したいと思えます。

どうしてでしょうか？たくさんの笑顔、のんびりした進行。少々うまくいかなくても、誰かがホローする。一番は、無理をしないから「イヤだ」と思うことがない。

こんな運動会がこれからも続くことを願っています。(担当Y. H)



## 盆踊り大会 8月14日(日)

今年は、盆踊りを主催している明神クラブの人たちに、「今年の盆踊りをどんな思いで取り組まれているのか」について話を聞きました。

毎年、どうやったらたくさんの人に参加してもらえらるだろうかといういろいろ考えてきました。打ち上げ花火・くじ引き・踊りの後の懇親会などに取り組んできました。

今年は、趣向をかえ花火に替えて「仮装」をやることになりました。でも、仮装してくれる人はいるのだろうか心配して当日を迎えました。

ところが、子どもの仮装もあり例年にない盛り上がったものになりました。来年も「仮装」にもっと力を入れてやろうと思っています。ぜひ、「仮装」で参加してください。

みなさん、参加をして盛り上げましょう。(Y. H)



## 「ひとはまつり」は大成功 8月27日(土)

去る8月27日に行われた「ひとはまつり」は、過去数回と違って天候にも恵まれ、自治会きららの人たちが大いに活躍することができました。自治会の会長である迫田さんをはじめ役員の人たちも自分の係をしっかりと担い、実行委員会を重ねることに頼もしく見えました。

好天も手伝って、最近になくたくさんの方々がおいでになり、祭りを盛り上げてくれました。ひとはにはよく過ぎたものが三つあるといわれています。一つは地域。二つは人とのつながり、三つは家族の会です。今回はそれぞれがうまく調和し、その上にまつりの成功があったように思います。振興会、明神クラブ、六風会がそれぞれの持ち分を活かし、食のブースも出店のブースも餅つきも大盛会です。ひとはまつりは自治会きららの主催ですが、老若男女が集える地域イベントとしてもさらなる成長を期したいものです。

縁の下の力持ちではないですが、自治会きららの人たちを主役として支えていただいた振興会をはじめ、地域みなさんに感謝で一杯です。(B. T)



## 子ども会 夏の思い出

下長田子ども会は、昨年度まで5・6区の子どもたちだけでしたが、今年度から4区の中村 佑くん（中2）と碧衣さん（小6）が加入され、14人となりました。

子ども会行事として、これまで宮島、美川ムーバレー、しまね海洋館アクアスに行きました。JR列車を利用したこともありましたが、たいてい家族毎の自家用車での移動でした。

今年は、違った形での交流もしたいという声も出て、バーベキュー&キャンプを下長田集会所で行うことに決まりました。キャンプの内容は、中学生が事前に意見を出し合っ、自分達で決めました。

7月23日（土）の夕方から、8家族が集合し、バーベキューの準備ではお父さん達が大活躍、焼肉と新鮮な野菜に舌鼓みを打った後は、ビンゴゲーム、キャンプファイヤー、花火と楽しみました。そして、中学生、それから小学生の男子は、お父さんも一緒に、集会所に宿泊しました。

子どもたちが集まってやる久しぶりのラジオ体操で、2日目スタートしました。朝食は、ロールパンにハム、チーズをはさみ、火であぶったカートンドッグにフレンチトースト、スープと盛りだくさんのメニューでした。その後、宝さがしにスイカ割り、水風船の当てっこ、川遊びは中学生の方が盛り上がっていたかも！ 昼食は、竹を使ってのそうめん流し・・・ 真夏にしては、ほど良い日差しの中、みんな元気で夏の思い出をつくることができました。

また、10月29日（土）には、未就学児の子どもさんも参加し、ハロウィンをしました。（T. K）

○振興会では、子どもがたなぐ地域となるよう若い世代の方からの貴重な意見をお待ちしています。



## 神川一磨さん模写展を開催

振興会だより第25号の人物伝で紹介しました神川一磨さんの模写展がやすらぎで開催されました。期間は10月1日より30日まで、1か月という長期間。

まずはその経過について

人物伝に登場してもらうため、神川さんの趣味程度だと思って作品を見せていただきました。ところがどっこい、びっくりぽんです。なんとなんと雪舟の模写をはじめ浮世絵に至るまで100余点の作品のレパートリーは多岐にわたり、魅入られてしまいました。

これらの作品を描きためておくだけでは、あまりにももったいない。渋る神川さんを説き伏せて、やすらぎでの展示へとこぎつけました。やすらぎの館長である稲垣さんも絶賛。

鑑賞された方も多くおられると思いますが、感想の中には、「高齢になってもこれだけの絵が描かれるようになるとは、勇気づけられました」との一文もありました。

私たちの地域には、「50、60がつぼみなら、70、80は花盛り」とばかりに活躍されている方もたくさんいます。

神川さんの模写展を観ながら、「ないものねだりよりもあるもの活かしの地域づくり」を目指したいものだと、改めて思いました。(B.T)



### 特報！ 中村人司さん 標語入選

振興会だより第20号で紹介させて頂いた中村人司さんが、『こころが「ほっ」とする標語』で市長表彰を受けられました。

プライドは 捨てて渡ろう 人の川

長田4区 中村人司

## 「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える⑱

今回は、「三輪明神」について調べてみることにしました。

きっかけは、向原町の古地図に「三輪明神」と書かれているのが目にとまり、どんな神社だったのか疑問に思ったからです。

皆さんは、長田6区の神川一磨さん宅横にあったという「三輪明神」をご存知でしょうか。

「明神」とか「名神」というのは、地方で名の高い神様、神社を意味するそうです。ですから、下長田の三輪明神も、住民に大切にされた名高い神社であったと想像します。

現在も、神川一磨さん宅横の150㎡くらいの社殿跡らしい土地に、たくさんの五輪石（赤ん坊の頭くらいのもの）が整然と並んでいます。神川一磨さんの奥さんの話では、一磨さんが、荒れた竹やぶの草を刈り、竹を間引き、無造作に置かれていた五輪塔の石を並べ整え、きちんとお祓いをされたそうです。

三輪明神社を詳しく知ろうと、本市の図書館や、県立図書館などに問い合わせたり、高田郡史や向原町史を調べてみることにしました。

その結果、「芸藩通志」（1825年広島藩のことを調査しまとめた古文書）という書物に、「長田村海渡山にあり。小祠なり。」と書かれていました。「小祠」とは、小さな神社という意味ですので、今の長田神社より、かなり小さかったこととなります。そして、明治末の神社統合令により、松尾の岡山神社などとともに、長田神社に合祀されたとのことです。

総本山は、奈良県桜井市三輪にある格の高い神社で、大物主大神を祀る大神神社、別名を三輪神社（三輪明神）ということがわかりました。大物主大神（つまり三輪明神）は、ご神体が蛇の化身といわれ、蛇とは河川の氾濫を意味します。治水の神様として、全国各地に祀られています。長田6区の徳丸や海渡一帯が、昔から洪水が出て困り、神を祀っていたのであろうと思われれます。古文書によると、明神谷の水野社、川之内の巖島神社とともに、管絃祭（おかげんさん）が行われていたとのことです。

こうした歴史的な伝統が、今日、地域振興会の行事として引き継がれているのですね。

(F. T)



2016/10/30

# 長田下地域人物伝⑫

～明神クラブ初代会長の溝上さん（4区）～

1975年（昭和50年）4月、長田下地域の勤労者が、小学校グラウンドに集い、ソフトボールを行いました。試合の後、真徳寺境内で打ち上げの話の中、「今年はカープが優勝しそうじゃのう。わしらも何かしようやあ！」となり、地元長田明神谷の地名から「明神クラブ」という草野球チームが結成されました。

また、「昔は、この境内で盆踊りをしていたよのう。盆踊りを復活させようやあ。」と盛り上がり、当時盆踊りを行っておられた先輩の方々から、踊り方を教わり口説いてもらって、「明神クラブ」が主体となって盆踊りが始まりました。

こうして、地元愛に芽生えた若者集団「明神クラブ」が誕生しました。その「初代会長」、並びに野球チームの「監督」に、溝上政博さんがなられたのでした。

特に、盆踊りは初めての事であり、女子高生にも踊りに加わってもらうため、明神クラブのメンバーが自宅まで送迎も行っていました。盆踊りの前後は、仕事もあり家庭もある中、毎年毎回、仕事・家庭を犠牲にしながらの日々は、並大抵のことではなかったそうです。

溝上さんは、若い頃、広島市内で数多く司会もされており、明神クラブメンバーの結婚披露宴の司会もされたことがあります。工芸も得意で、手元にある材料を創意工夫して、灯籠、小間物入れなど風流で味のある作品に仕上げる腕前には、感服するばかりです。

1998年（平成10年）、明神クラブが田舎芝居を行い始めてからは、舞台道具や照明器具も独自の感性で全て手作りし、芝居公演を強力にバックアップされています。舞台背景幕は、上演する芝居に合う風景などを思い描きながら、自分で本などから探して、工夫のうえ構図を作成し配色も考案されたそうです。

照明器具も、映画館から貰い受けた照明器に独自の工夫をこらし、手元にあるものを加え本職さながらの器具に改良し、役者の引き立てに貢献されています。ここでも、溝上さんは、誰に言われるでもなく自ら進んで膨大な手間・労力等を費やし、本当に芝居公演を支えておられます。その心意気は、誰も及ばないのではないのでしょうか。

明神クラブ結成から42年。溝上さんは、「まさに波乱万丈の日々であった。これまでの苦労話には限りがない。結成当時の初心を思い出すことも大切なのでは。」とっておられました。

これからも、明神クラブを見守って頂きたいと思っています。（K.M）



イラストはTa・Koさん

